

◆ 平成 21 年度（後期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 健康科学科	学科長：江島洋介 学科 FD 委員：増山悦子・菅原芳明	平成 21 年 4 月 1 日（水）～ 4 月 30 日（木）	特に定めない	1) 実施目的：「教育改善；全教員参加；2008 年度後期「学生による授業評価」の集計結果」をキーワードとして実施した平成 21 年度健康科学科第 1 回 FD 2) 実施内容： ・「教育改善」，「全教員参加」，「授業評価の集計結果」をキーワードとして実施した平成 21 年度健康科学科第 1 回 FD。 ・具体的には，2008 年度後期「学生による授業評価」に対する各科目教員コメントを基礎資料とし，教員個々の感想・見解・意見を集約し，それらを再度学科教員全員で共有化する。 ・なお，新任者研修を兼ねて実施。学科教員全員参加。
人間文化学部 健康科学科	学科長：江島洋介 学科 FD 委員：増山悦子・菅原芳明	平成 21 年 5 月 14 日 14:40 ～16:00	大講義室	1) 実施目的：全教員・全学生参加型の「オリゼミ健康科学シンポジウム」として，オリゼミ開催時に実施。平成 21 年度健康科学科第 2 回 FD 2) 実施内容：学科教員全員・学科学生全員参加。「オリゼミ健康科学シンポジウム（4 名の助教の方のプレゼンテーション）」を開催，その成果を学科の教育改善活動に結びつける一つの試みとして例年実施しているもの。以下のアンケートを行った。回収数は 110。それらを集約，全教員・全学生に配布（共有）。 Q1：『健康科学科のオリゼミでは，「健康」や「健康を科学する」ことについて考えることにして来ました。今回のオリゼミにおける助教の方々のプレゼンテーションは，「健康」や「健康を科学する」ことについて，考える良いきっかけになりましたか？』 Q2：『今回のオリゼミは，学生・教員それぞれ“将来”に思いをはせる良いきっかけになりましたか？』 Q3：『今回のオリゼミにおける助教の方々のプレゼンテーションについて，（率直な）感想や（忌憚らない）ご意見等を以下の自由記載欄にお書き下さい。』
人間文化学部 健康科学科	学科 FD 委員： 菅原芳明・増山悦子・栢下淳	平成 21 年 10 月 13 日（火） ～10 月 16 日（金）	・10/13(火) ・1,2 限 2357 講義室 ・10/14(水) ・1 限 2357 講義室 ・3,5 限 1331 講義室 ・10/15(木) ・3 限 2346 講義室 ・3 限 2343 講義室 ・10/16(金) ・1,2 限 2343 講義室	1) 実施目的：学科における「教育改善」を目的として，平成 21 年度栄養教諭実習公開模擬授業（10/13（火））への学科教員の参加（自由参加）を呼びかけると共に，当学科 4 年生 13 名の公開模擬授業に，授業を聴講する「生徒」の側で参加する学科 FD である。実習生の模擬授業を聴講すると共に，生徒の立場ならびに生徒の目線で「授業評価」を行う。つまり，13 名の教育実習生の授業（参加したもの）の内容について，「教育改善」の視点から具体的なアドバイスを行なうものとする。例えば，授業中に用いた資料の可否や妥当性，教科書の使い方や教科書を使う頻度の適否，板書の仕方，声の大きさ，説明の仕方，生徒側の理解度の確認の仕方等である。授業について，「生徒」の立場・視点で参加する（経験する）「学科教育改善研修」の格好の「場」として企画。 2) 実施内容： ・平成 21 年度栄養教諭実習・実習生 13 名。 ・上記 13 名による公開模擬授業に「生徒」の立場で参加。 ・公開授業は，実習生による 30 分間の授業ならびに「生徒」側で参加した教員，当学科 4 年等による 15 分間の授業評価から構成されている。

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 健康科学科	学科長：江島洋介 学科 FD 委員：増山悦子・菅原芳明	平成 21 年 11 月 16 日（月） ～11 月 30 日（月）	特に定めない	<p>1) 実施目的：学科における「教育改善」を目的として、平成 21 年度前期「学生による授業評価」に対する担当教員コメントの集計結果について、学科教員全員で共有化すると共に、平成 21 年度「第 4 回学科 FD 研修会」とする。学科全教員が参加して行なうものである。</p> <p>2) 実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 17～20 年度 4 カ年に渡り、「学生による授業評価」に対する各科目教員コメントを基礎資料とする学科 FD の実施に工夫を凝らして来た。これらの成果をバックグラウンドに、平成 21 年度新カリキュラムに移行。移行スキームは、「学生による授業評価」→「授業評価に対する教員コメントの学科内共有化」→「学科 FD」→「4 カ年毎のカリキュラム編成・改変」というものであった。</li> <li>新カリキュラム移行に伴い、学科教員個々の授業改善に向けた努力を再度点検すると共に、次の「新たな 4 カ年のカリキュラム編成・改変」に向けた学科全体・総体としてのカリキュラムの点検を行なうものである。</li> <li>つまり、次の 4 カ年の「学科カリキュラム改変」を目指した有機的 FD の実施。</li> <li>具体的には、H21 年度前期「学生による授業評価」に対する各科目教員コメントを基礎資料とし、教員個々の感想・見解・意見を集約し、それらを再度学科教員全員で共有化する。</li> </ul>
人間文化学部 健康科学科	学科長：江島洋介 学科 FD 委員：増山悦子・菅原芳明	平成 22 年 3 月 1 日（月）～ 3 月 31 日（水）	特に定めない	<p>1) 実施目的：学科における「教育改善」を目的として、平成 21 年度中に行なった全 4 回の学科 FD 活動を総括する目的で実施（平成 21 年度「第 5 回学科 FD 研修」）</p> <p>2) 実施内容：学科教員全員参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 21 年度第 1 回学科 FD 研修会（4/1～4/30 日）：平成 20 年度後期「学生による授業評価」に対する各科目教員コメントを基礎資料とし、教員個々の感想・見解・意見を集約し、それらを再度学科教員全員で共有化するととのやり方で実施した学科 FD。なお、新任者研修を兼ねて実施。</li> <li>第 2 回学科 FD 研修会： 5/14 日開催のオリゼミ時に実施。全教員・全学生参加型の「オリゼミ健康科学シンポジウム」を開催。成果を学科の教育改善活動に結びつける一つの試みとして実施したものの。</li> <li>第 3 回学科 FD 研修会： 10/13 日に実施。平成 21 年度栄養教諭実習・実習生 13 名による公開模擬授業に「児童」の立場で参加。児童目線で「授業評価」を行なうことにより、その成果を教育改善活動に結びつける一つの試み。</li> <li>第 4 回学科 FD 研修会： 11/16～11/30 日に実施し。平成 21 年度前期「学生による授業評価」に対する各科目教員コメントを基礎資料にした第 1 回学科 FD 研修会と同様の主旨を持つ学科 FD。上記 4 回の FD を総括する目的で実施した FD。平成 21 年度学科 FD 報告書を作成。</li> </ul>

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科 健康科学科	学部 FD 委員： 樹下文隆・李建 志・藤井浩樹・増 山悦子・菅原芳明	平成 22 年 3 月 16 日（火） 11：00～12：00	2215 セミナー室 （2 棟 2F）	1) 実施目的：学部における「教育の質保証」検討の一環として FD 講演会を企画。教育の質保証－高等学校段階までの世界の動向－ 2) 実施内容：講演内容の今日性に鑑み、学部教員全員にアナウンスすると共に、平成 21 年度「第 1 回人間文化学部 FD 研修会」として開催。「教育の質保証」は、極めて今日的な課題であり、当学部の今後に向けた重要課題の一つでもある。当学部の藤井浩樹先生に講師を依頼。「教育の質保証－高等学校段階までの世界の動向－」と題した講演会を平成 21 年度「第 1 回人間文化学部 FD 研修会」として開催したもの。内容は、1)「キー・コンピテンシーとは？」、2)「キー・コンピテンシー設定の背景（グローバル化；知能社会；持続可能な社会）」、3)「キー・コンピテンシー設定のねらい（生活がうまく行くことと社会が良く機能すること）」4)「キー・コンピテンシーの構成内容（知識の活用、集団の中での協同、自立的に活動すること、省察すること）」、5)「学力向上を目指して－ドイツの取り組み－」、6)「ドイツの事例－教育スタンダードの設定－」7)「ドイツの事例－教育スタンダードの設定のねらい－」等。なお、30 分の講演の後、講演の内容をもとに、「教育の質保証」について、参加者（学部教員 15 名）間で議論（30 分）。
保健福祉学部 看護学科	松森直美	平成 21 年 10 月 1 日（木）	2313 講義室	1) 実施目的：看護学科の教育課程における実践的教授法の見直しと再構築～看護倫理・看護技術教育の検討～ 2) 実施内容：看護倫理研修会を開催した。講師に山田佐登美氏（尾道市民病院看護部長・副院長）を招聘し、臨床における看護倫理の問題と対応について講演していただいた。参加学生から「実際に臨床で活躍されている看護部長さんの話にはリアリティがあってよかった」などの意見があった。
保健福祉学部 看護学科	松森直美	平成 21 年 10 月 25 日（月） 平成 21 年 11 月 16 日（月） 平成 21 年 12 月 10 日（木） 平成 22 年 1 月 25 日（月） 平成 22 年 2 月 19 日（木） 平成 22 年 3 月 11 日（木）	3416 講義室	1) 実施目的：看護学科の教育課程における実践的教授法の見直しと再構築～看護倫理・看護技術教育の検討～ 2) 実施内容：毎月 1 回の割合でメンバー 9 名による検討会議を開催した。会議では、昨年度実施した学生への看護倫理の意識調査の分析を行い、主に 4 年生の自由記述の質的分析を行った。この結果をまとめたものを次年度の日本看護倫理学会（平成 22 年 6 月 12 日；札幌）で発表する予定である。また、昨年に引き続き学生への看護倫理に関する意識調査を行った。今後、昨年の結果と比較しながら分析を進める予定である。
保健福祉学部 理学療法学科	学科長 大塚彰	平成 21 年 1 月 29 日（金） 12:00～13:30	2313 講義室	1) 実施目的：臨床実習指導者と大学教員とのワークショップ開催、積極性に乏しい学生に対する指導方針等について。 2) 実施内容：教員 10 名、臨床実習指導者 23 名。臨床実習中にコミュニケーションを図ることができない積極性に乏しい学生の指導方針について討議し、情報の共有化を図った。活動の詳細は、「県立広島大学総合教育センター年報」に報告する。

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 理学療法学科	学科長 大塚彰	毎週水曜日学科会議内 9:00～10:30	2416 会議室	1) 実施目的：学生支援に関する検討会および模擬実習についての打ち合わせ 2) 実施内容：学科全教員（16名）。支援が必要な学生の対応策を学科教員で検討した。また、現代GPの一環として実施した模擬患者を用いてのコミュニケーション実習についての打ち合わせも行った。活動の詳細は、「県立広島大学総合教育センター年報」に報告する。
保健福祉学部 理学療法学科	学科長 大塚彰	毎月第2水曜日学科会議前	2416 会議室	1) 実施目的：学科勉強会 2) 実施内容：学科教員ならびに時に他学科の教員の参加もあり。学科教員による勉強会の開催。開催1週間前に目的、担当者について学部内全教員にメールを送り、学科以外の教員の参加も募った。活動の詳細は、「県立広島大学総合教育センター年報」に報告する。
保健福祉学部 作業療法学科	田端幸枝	平成22年1月13日（水）	三原キャンパス 2号館2416会議室	1) 実施目的：FD活動の定着 2) 実施内容：情報の共有化や学生指導の検討は月2回の学科会議において実施した。教育の質の向上を図るための学科FD講演会は原則年2回（前後期各1回）開催するが、本年度は後期に2回開催し、合計3回であった。後期第1回FD講演会は、オーストラリア研修から戻った高木雅之先生が2010年1月13日（水）に「オーストラリアで経験した教育と地域貢献」という目的で講演され、第2回FD講演会は2010年3月10日（水）に林優子先生が「新臨床研修指導医養成講習会の取り組みと成果について」という目的で講演された。 ・第2回FD講演会の参加者数は15名で、第3回FD講演会の参加者数は22名であった。いずれの講演会も、他学科からの参加者があった。 ・簡単な状況報告 (1) 情報の共有化や学生指導の検討は月2回の学科会議において実施した。共有化された情報は指導の必要な学生の情報と教育に関わる情報が多かった。学生指導の検討は、出席や授業参加態度に問題がある者、成績不良または臨床実習の不応学生が主たる対象で、指導目標と方法を検討した。 (2) 第2回FD講演会は高木雅之先生から、オーストラリアのウーロンゴン大学ショーヘブンキャンパスとニューキャッソル大学の地域住民への教育の供給と地域住民からの研究協力という相互扶助的連携システムについて紹介いただいた。 (3) 第3回FD講演会は林優子先生から、医師の臨床研修指導医養成講習会の概略と研修病院の研修体制等への満足度という視点からの成果報告がなされた。教育者としての研修指導医には、①良き社会人であること、②優れた臨床医であること、③研修医に寄り添う存在であることが必要であり、positive feedbackが指導に有用であると説明された。
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美	学生支援会議および毎月の学科会議	1319・1310 演習室	1) 実施目的：学生支援の充実 2) 実施内容：コミュニケーション障害学科教員13～17名。引き続き、学生支援にかかわる情報の共有をはかった。個別の事例への対応のほか、実習時の対応、国家試験への対策などが中心となった。
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美	平成21年10月2日（金） 12:10～	1309・1010 演習室	1) 実施目的：専門職教育の効果的な方法についての検討 2) 実施内容：ST養成校研修会への教員の参加（全国研修会（9/27東京フォーラムにて開催）報告 城本教授「言語聴覚士養成校に望まれる教育」）。研修会への参加は本学科教員2名、報告および検討は本学科教員13～15名。

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美	平成 22 年 3 月 3 日 (水) 12:10～	1309・1010 演習室	1) 実施目的：専門職教育の効果的な方法についての検討 2) 実施内容：ST 養成校研修会への教員の参加（中四国ブロック研修会（2/28 四国中央医療福祉総合学院）報告 細川助教「国試対策共通模擬試験について」および検討。研修会への参加は本学科教員 2 名，報告および検討は本学科教員 13～15 名。
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美		学内および三原市役所総合保健福祉センター(サン・シープラザ)など	1) 実施目的：専門職教育の効果的な方法についての検討 2) 実施内容：関わった本学科教員 13 名，地域団体の活動（月ごと）には本学科教員 1～2 名，学生 3～8 名が参加。コミュニケーションふりかえりシートを活用した学生指導。三原失語症友の会「こだま」，竹原言語友の会「竹の会」，高次脳機能サークル「ふきのとう」など地域団体の活動への学生の参加の推進とその結果の検討。コミュニケーションふりかえりシートを活用した学生指導，地域団体の活動への学生の参加は継続的に行われ，こうした活動の意義が明らかにされた。（詳細は現代 GP の報告書に記した。）
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美		学内およびサン・シープラザなど	1) 実施目的：専門職教育の効果的な方法についての検討 2) 実施内容：担当教員 6 名ほか 2～3 名。授業公開「コミュニケーション科学研究法」 授業公開「コミュニケーション科学研究法」については，参観教員からの質問やコメントが学生にとって励みになると思われた。
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美		4302 実験室， 4316・4317 演習室， 4305 共同研究室， 4320・ 4324・4325 演習室	1) 実施目的：専門職教育の効果的な方法についての検討 2) 実施内容：直接関わった本学科教員 6 名。模擬患者によるコミュニケーション演習（2 年次学生対象臨床実習 I）の試行とその結果の検討。模擬患者によるコミュニケーション演習は，学生たちにとって非常に有意義であり，学習への意欲を高める上で有効であると考えられた。（詳細は現代 GP の報告書に記した。）
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美	平成 21 年 10 月 23 日 (金) 18:00～	4102 講義室	1) 実施目的：専門・関連分野に関する知識の充実 2) 実施内容：本学科教員では 7～10 名。講演：皆川泰代氏「光イメージングによるコミュニケーション脳機能研究－発達とその障害を考える」
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美	平成 21 年 11 月 16 日 (月) 10:40～	4101 講義室	1) 実施目的：専門・関連分野に関する知識の充実 2) 実施内容：本学科教員では 7～10 名。講演：ジャミーソン氏「リテラシーを育む：カナダの試み」
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	本多留美	平成 22 年 3 月 19 日 (金) 15:00～	4102 講義室	1) 実施目的：専門・関連分野に関する知識の充実 2) 実施内容：本学科教員では 7～10 名。セミナー中村圭吾氏「外部音源を用いた電気音声の統計的音質改善」

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
保健福祉学部 人間福祉学科	三原博光	平成 21 年 10 月 22 日 (木)	三原キャンパス	1) 実施目的：学生及び教員の国際交流能力を養う。 2) 実施内容：ドイツ人講師メアテス博士によるドイツの社会福祉の講義やメアテス博士との会話を通して、学生及び教員が海外の社会福祉情報を得ることができ、かつ国際交流能力を養うことができたと思われる。
保健福祉学部 人間福祉学科	三原博光	平成 22 年 3 月 6 日 (土)	三原キャンパス	1) 実施目的：学校生活に問題を抱え、授業欠席や就職活動困難な学生への支援体制の強化。 2) 実施内容：三原市こころネット祭りのなかで、学生有志が「思いやり戦隊ハートレンジャーショー」の劇を披露し、まつりを盛り上げた。ボランティアの学生は 36 人であった（前日の準備にも 19 人参加）。
保健福祉学部 人間福祉学科	三原博光	毎月の学科会議のなかで	三原キャンパス	1) 実施目的：学生及び教員の福祉実践能力の構築。 2) 実施内容：授業欠席の多い、就職活動の困難な学生に対して、チューターを中心に教員間で情報を共有し、面接や電話などを通じて支援を行った。授業欠席の多い、就職困難な学生の主な原因は不規則な生活により生活の乱れ、原因不明の強い不安などが考えられ、各学生の個別的状況を配慮し、支援を行った。